

03.誰が為の、

流れ出す世界を呪うなら
せめて白紙の海へ弔おう
拒まれた扉の先で
揺らぎ 沈み 幻に沈んでいく

不条理に浸る定義と
罪咎を課した理
この首に巻かれた鉄が
存在を許さないならば

ただ このまま 永久へと落ちるだけ
この 記憶と 懲悔を 投げ出して
突き刺す金の針を喉元に
差し出す私は笑えてたかな

幾百の 終わりに嫌われたって
幾度心を叩き割ったって
誰もかれもが知らぬふり
無垢に引く手が私を殺す

断罪に燃え盛る火を
いつまでも囚われるよう
足元に絡まる毒を
飲み干して 濁りゆく 夕

04.沈黙

もう 戻らないことを決めたから
永訣の幻想を喜んで
苛む孤独がああ こんなにも
いとおしいと思ってしまったの

ねえいつか 届いてほしい
もういちど やり直すなら
わたしだけ いい世界で
何一つ 変わらないように

ただ このまま 永久へと落ちるだけ
この 記憶と 懲悔を 投げ出して
突き刺す金の針を喉元に
差し出す私は笑えてたかな

貴く金の針のその先に
見送るあなたは笑えてたかな

あの日の言えない言葉
深く深く 心を抉る
どうか 全て忘れて
見ない振りを続ける
いつかの弱く優い願い事を忘れないように
幻想に終わりを告げる
彼女のいない世界を捧げるなら許されるかな

滲む記憶 掠れゆく まぶたを閉じた先の
死にゆく緋 掠る指 届かずにいた

わたしを苛む棘が
「これは夢」と囁くように

せめて 全て忘れて
何も知らないいい
あなたの脆く幼い願い事が壊れないように
明日に帳を下ろす

彼女の消える世界を沈めたなら救われるから
插らぐ視界 零れゆく 永遠が変わるとき
「知らない」と 怖い願う 言葉は融けて

わたしを背む棘が
「これでいい」と囁くように

せめて 全て忘れて
何も知らないいい
あなたの脆く幼い願い事を壊せやしない

明日に帳を下ろす
彼女の笑う世界を極にして
——全て、忘れて

見ない振りを続けて
二人の弱く優い願い事を守り続ける
幻想に終わりを告げて
彼女が笑う世界を沈めたなら救われるから

05.選んだ話

そう いつまでも 花はただ
そこに枯れない咲
在り続ける儀典を
毀れ出した 運命と 存在意義 与え
認めたくなかったの

綻び解る幻想を
繋ぎ留めるために
凍て付く声掛けつく指
気付かずにいた

希う呼びを殺して
届かないと知り手を伸ばす
喪った記憶のむくろは
この手をすり抜けて

望まずとも
庵えぬ傷を追憶ごと流せばいい
いつか廻る世界で
どうか笑っていて

今はもう 何もかも 遠く
閉ざされた茨道 引き返すこともなく
抱え込むその傷を包み
寄り添っていたなら手放さず済んだかな

君は言う 心を暖らして
終わらない日々の終焉を
目を閉ざす すべてを忘れて
夢に送り出した

望んだから
待ち受ける炎の道に身を捧ぐ
いつか終わる世界で
どうか許さないで

抱えきれぬ後悔の罰
傍観の生んだ咎
分け合い支えることさえも
許してくれはない

希う呼びを殺して
届かないと知り手を伸ばす
喪った記憶のむくろは
この手をすり抜けて

君は言う 心を暖らして
終わらない日々の終焉を
目を閉ざす すべてを忘れて
どうか笑っていて